

自由が丘×東京藝大

アート & デザイン・プロジェクト

アートマーケット開催のおしらせ

世界で一つだけのアクセサリや小物がいっぱい。

自分だけのお気に入りが見つかる2日間。

日 時： 2018 7/15・16 正午～18時

場 所： 自由が丘駅前ロータリー 女神広場

***雨天時は野村證券自由が丘支店地階。また、熱中症の危険がある場合も野村證券自由が丘支店地階で行います。**

出店者： 東京藝術大学卒業生

主 催： 自由が丘商店街振興組合/街づくり会社ジェイ・スピリット

『自由が丘』の街の成り立ちは、昭和の初めまでさかのぼります。昭和3年に東急東横線が渋谷から横浜まで開通。同じ年、自由主義教育の理想を掲げる手塚岸衛という教育者が、九品仏駅(現在の自由が丘駅)に近いところに自ら理想とする学園を建て、自由ヶ丘学園と名づけました。(学園の校庭となる土地に小さな起伏がありそれを『丘』と呼び、自由が丘の名前が生まれた)

手塚はパリに向かう洋行の船上で前衛舞踊家石井漠(いしいぼく)と知り合っていました。石井漠も同じくこの地にバレエスタジオを建設し、住所にはこの土地についていた碑衾村(ひぶすまむら)と書かずに『自由ヶ丘』と書きました。石井漠のまわりには、東郷青児、山田耕作ら芸術家たちがいつも出入りしていて、彼らがこの地を文化の理想郷にすべく象徴としての呼び名「自由が丘」を使いまわし、それはやがて駅名となり、最後には正式な行政の番地になりました。(文化人たちは石井漠を中心に、石坂洋次郎、石川達三、澤田政廣、渋谷秀雄、岡本太郎、小糸源太郎、宮本三郎らと自由ヶ丘文化村という懇親会を発足させた)

この「自由が丘」の地は、「自由が丘」創成期、絵画や彫刻、音楽といった分野で東京藝術大学に関係する文化人がたくさんいました。

街ができてきた時の精神をそのままに、アートマーケットを開催します。

お散歩がてら見に来てください!